

Title	高橋誠一郎名誉教授 年譜・著述目録
Sub Title	The chronology and bibliography of the writings on economics of the late emeritus Prof. Seiichiro Takahashi
Author	白井, 厚 武者小路, 信和
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1983
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.75, No.特別号 (1983. 2) ,p.141- 163
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	高橋誠一郎名誉教授追悼特集号
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19830201-0141

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

高橋誠一郎名誉教授 年譜・著述目録

	年 譜	著 述 目 録
	<p>1884年 (明治17年)5月9日, 新潟で生まれる。 1888年 横浜へ転居。 1890年 塾に大学部発足。文学・理財・法律の3科から成り, 理財科主任はドロップス。 1891年 老松小学校入学。 1898年5月1日, 慶應義塾普通学科へ入学。 鎌田栄吉塾長に就任。 気賀勘重, 理財科主任に就任。 1899年 秋から福沢諭吉の朝の散歩の伴をする。 1900年 このころ福沢家の書庫を自由に利用。 1901年2月3日, 福沢諭吉没。2月8日の葬儀に参列。 1903年3月, 理財学会創立(鎌田会長) 9月, 寄宿舎に消費組合設立。</p>	<p>1902年7月「不平の人」(竹葉)『三田評論』(23) 10月「不平の人」(竹葉)同(24) 1904年3月「久保田文相に呈するの書」(竹葉)同(32) 1905年11月「慶應義塾大学教授諸氏に呈するの書」(竹葉)同(38) 1906年6月「貨幣の定義を論じて堀江教授に質ふ」(竹葉 迂人)同(40) 1907年7月「慶應義塾五十年」(竹葉)同(42)</p>
一九〇八年	<p>3月, 大学部政治科卒業, 4月, 普通部教員に就任。 8月, 『修身要領』普及のための塾巡回講演会に参加し教育勸語の一部を批判。</p>	<p>9月「独逸の化学工業」(翻訳)『国民経済雑誌』5(3) 11月「米国の外国貿易(其一)」同5(5) 12月「米国の外国貿易(其二)」同5(6)</p>
一九〇九年(明治四二年)・25歳	<p>4月, 大学部予科教員に就任。 2月1日, 『三田学会雑誌』創刊, 以後編集実務を担当。(同誌は三田学会発行, 大学部各科共通機関誌) 講義「経済原論」(予科) 「英語」(普通部) 伊藤博文ハルピンで暗殺される。</p>	<p>2月(時評)「社会主義の取締」「新政党組織説」「文芸院設立の風評」「袁世凱氏の辞職」(竹葉), (雑録)「米国工業管見」『三田学会雑誌』1(1) 3月(時評)「勤儉貯蓄説の流行」「文部大臣の文学者招待」「憲法発布二十年」「外務大臣の対米意見」(竹葉)同1(2) 4月(時評)「壅塞関係」「高等商業学校の紛紜」「富豪専制か貧民専制か」「貴族院と都制案」「タフト氏と黑人問題」「又新会と新政党」「黙阿彌劇の運命」「空中時代来らんとす」同1(3) 5月(時評)「試験制度と師弟の関係」「釋尊降誕会」「英独製糖競争」「米国茶税案否決」「日糖重役の拘引」(雑誌界の傾向)同1(4) 「英国に於ける社会主義の発達及其危険」『慶應義塾学報』(142) 6月(時評)「英国の財政難」「エリオット総長と旭日章」「英国下院の歳費案可決」「統監更迭の内議」「勃牙利の独立承認」「アダナの大虐殺」「商大問題」「濱職代議士の続出」『三田学会雑誌』1(5) 7月(時評)「革命思想の文学」「其後の高商事件」「大隈伯とチロル氏との問答」「ダルキン百年祭」「海軍拡張と財政難」「布哇邦人同盟罷業の再燃」「孔子廟の焼火」「武士道の流行」(雑録)「社会主義と共産主義」同2(1) 9月「社会問題発生前の社会問題」『慶應義塾学報』(146) 10月(時評)「英国貴族院と自由党内閣」「ローズベリー伯の予算案反対」「工場法案の制定」「歳費増額案」「政友会十周年大会」「直轄学校に対する修身訓令」「北極探検家の功名争ひ」「火星との通信」『三田学会雑誌』2(3) 「社会問題発生前の社会問題」『慶應義塾学報』(147)</p>

	年 譜	著 述 目 録
		11月（時評）「士君子の鏡技」「索遜の総選挙」「刺客安成七」「新高山頂の天文台」「身延新貫主入山」「謡曲の流行」『三田学会雑誌』2（4） 12月（時評）「布哇に於ける日本労働者」「工場法案と幼年工及び女工」「イブセン劇の試演」「陪審制度と政友会」「学制改革案の解決難」「商法改正案提出の延期説」「女学生と『可らず訓』」「浜野先生の長逝」（雑録）「ドルチェスタア事件とオーウェニズム」同2（5）
一九一〇（明治四三）年・26歳	講義「経済原論」（予科） 『三田文学』創刊され、『三田学会雑誌』は10月より経済・政治・法律の論文のみ掲載。 4月、堀切善兵衛、理財科主任に就任。日韓併合。	1月（雑録）「カヴールの後半生（其一）」『三田学会雑誌』3（1） 2月（雑録）「カヴールの後半生（其二）」同3（2） 4月（雑録）「カヴールの後半生（其三、完）」同3（4） 5月（雑録）「英国工場法の淵源（其一）」同3（5） 6月（雑録）「英国工場法の淵源（其二）」同3（6） 7月（雑録）「英国工場法の淵源（其三）」同4（1） 9月（雑録）「シモンド、ド、シスモンズの生涯（其一）」同4（3） 10月（雑録）「シモンド、ド、シスモンズの生涯（其二）」同4（4） 「個人主義と社会主義」『慶應義塾学報』（159） 11月（雑録）「シモンド、ド、シスモンズの生涯（其三）」『三田学会雑誌』4（5） 12月（雑録）「シモンド、ド、シスモンズの生涯（其四）」同4（6）
一九一一年（明治四四）年	5月、経済理論・経済学史研究のためヨーロッパへ留学。ロンドンの大英博物館図書室やゴールドスミス図書館で読書。 12月、略血。 辛亥革命。	『国民経済学原理 全』高橋誠一郎編 東京 慶應義塾出版局 264 p. 1月（雑録）「市民的国民経済学と社会主義的国民経済学との接近（其一）」「法権の圧迫と労働組合」『三田学会雑誌』5（1） 「消費組合と社会主義」『慶應義塾学報』（162） 2月（雑録）「市民的国民経済学と社会主義的国民経済学との接近（其二）」『三田学会雑誌』5（2） 11月「ジョンローの性格と経済学説」『慶應義塾学報』（172） 12月「ジョンローの性格と経済学説（承前）」同（173）
一九一二年	2月、パークシャーの療養所へ。 9月、帰国。 4月、堀江婦一、理財科主任に就任。 5月、創立50年記念図書館開館。 明治天皇没。	1月（批評紹介）「Syndicalism and Labour, by Sir Arthur Clay.」『三田学会雑誌』6（1）
一九一四年（大正三年）	4月、大学部理財科教員に就任。 戦時中に至るまで再び『三田学会雑誌』の編集実務を担当。（同誌は理財学会の機関誌となる） 講義「経済原論」（理財、法） 「経済学史」（理財） 第一次世界大戦始まる。	6月「旧約全書に見れたる経済思想」『慶應義塾学報』（203） 9月「ベルナルド・ダブンツァチの貨幣論（上）」『三田学会雑誌』8（9） 12月「ベルナルド・ダブンツァチの貨幣論（下）」同8（10）
一九一五年	大磯王城山の山荘に住む。 講義「経済原論」（理財） 「経済学史」（理財）	1月「家族制度の経済観」『三田評論』（210） 9月「トーマス・マンと其の時代（上）」『三田学会雑誌』9（9） 10月「トーマス・マンと其の時代（二）」同9（10） 11月「トーマス・マンと其の時代（三）」同9（11）

年	譜	著 述 目 録
		12月「トーマス・マンと其の時代(四,完)」同9(12)
一九一六年	講義「経済原論」(理財) 「経済学史」(理財) 「日本作文」(理財)	
一九一七(大正六)年・33歳	交詢社に入社 講義「経済原論」(理財) 「経済学史」(理財,政) 「研究会」(理財) 「日本作文」(理財) 7月,『三田新聞』創刊。 ロシア革命。	『欧州経済学史』上,下巻 高橋誠一郎講述 東京 大洋社 謄写本(1917~18)2冊 1月(雑録)「フランソア・ケリーの経済論」『三田学会雑誌』11(1) 3月「『フキジオクラット』の純収益論に就きて」同11(3) 「ジュ,ボン,ド,ヌムール」『三田評論』(236) 4月(雑録)「沙翁の著書と誤伝せられたる匿名氏の経済論」『三田学会雑誌』11(4) 6月「『貨幣問答』を中心として観たるサー・井リアム・ベチの貨幣論(上)」同11(6) 7月「『貨幣問答』を中心として観たるサー・井リアム・ベチの貨幣論(下)」同11(7) 8月「経済政策上の三大主義」『経済時論』2(2) 10月「サー・井リアム・ベチの国富論(上)」『三田学会雑誌』11(10) 11月「サー・井リアム・ベチの国富論(下)」同11(11) 12月(雑録)「ケツテレル僧正と其の『労働問題及び基督教』(上)」同11(12) 「仏蘭西革命と社会主義」『三田評論』(245)
一九一八(大正七)年・34歳	12月,革命的サンディカリストの階級闘争論を寄稿したため『三田評論』発禁となる。 講義「経済原論」(理財) 「経済学史」(理財,政) 「研究会」(理財) 3月,福田徳三塾を辞職。 12月,大学令公布。従来の専門学校令の適用という私学の差別扱いが廃止された。 米騒動。 シベリア出兵。	『欧州経済学史』上,中,下巻 高橋誠一郎講述 東京 大洋社 謄写本(1918~20)3冊 1月(雑録)「ケツテレル僧正と其の『労働問題及び基督教』(下)」『三田学会雑誌』12(1) 2月「十七世紀の英国に於ける利子論争(其の一)」同12(2) 3月「十七世紀の英国に於ける利子論争(其の二)」同12(3) 4月「十七世紀の英国に於ける利子論争(其の三)」同12(4) 5月「十七世紀の英国に於ける利子論争(其の四)」同12(5) 6月「十七世紀の英国に於ける利子論争(其の五)」同12(6) 7月「十七世紀の英国に於ける利子論争(其の六)」同12(7) 8月「ジョン・ロックの利子学説(上)」同12(8) 9月「ジョン・ロックの利子学説(下)」同12(9) 11月(雑録)「クセノフォンの諸著に現はれたる経済思想」同12(11) 「新階級戦争論」『三田評論』(256) 12月「ハリファックス卿の貨幣改鑄を中心として喚起せられたる貨幣論争(其一)」『三田学会雑誌』12(12)
一九一九年	講義「経済原論」(理財) 「経済学史」(理財,政) 「研究会」(理財) 3月,各学科長は教授会の互選となる。 パリ 平和会議	1月「ハリファックス卿の貨幣改鑄を中心として喚起せられたる貨幣論争(其二)」『三田学会雑誌』13(1) 2月「ハリファックス卿の貨幣改鑄を中心として喚起せられたる貨幣論争(其三)」同13(2) 3月「ハリファックス卿の貨幣改鑄を中心として喚起せられたる貨幣論争(其四)」同13(3)

年 譜	著 述 目 録
<p>一九一九（大正八）年・35歳</p>	<p>「近世に於ける経済思想の変遷」『我等』1（3） 4月「トーマス・モアのユートピアと其共産主義的思想（上）」『三田学会雑誌』13（4） 5月「トーマス・モアのユートピアと其共産主義的思想（中）」同13（5） 6月「トーマス・モアのユートピアと其共産主義的思想（下）」同13（6） 7月（雑録）「トオマス、ホップズの政治哲学中に見れたる経済学説」同13（7） 「貨幣よりの解放」『解放』1（2） 8月「ジョン・ロックの哲学と其経済学説との交渉（一）」『三田学会雑誌』13（8） 9月「ジョン・ロックの哲学と其経済学説との交渉（二）」同13（9） 「労働組合と同盟罷工」『改造』1（6）。（発売禁止） 「消費の方面よりする社会改造」『黎明講演集』2（1） 10月「マーカントリズム概論」『三田学会雑誌』13（10） 「基督教と社会主義」『改造』1（7） 11月「デヴィッド・ヒュームの経済学説（一）」『三田学会雑誌』13（11） 12月「デヴィッド・ヒュームの経済学説（二）」（新刊紹介）堀江博士著 労働問題の現在及将来 同13（12） 「階級闘争論」『改造』1（9）</p>
<p>一九二〇（大正九）年・36歳</p>	<p>4月、大学令により大学発足し、経済学部教授兼法学部教授になる。 講義「経済原論」（理財、経） 「経済学史」（理財、政） 「研究会」（理財） 4月、文・経・法・医の4学部発足。理財科は経済学部となり、従来の理財科学長堀江一が学部長に就任。 戦後大恐慌。 日本最初のメーデー行われる。</p> <p>【経済学史研究】東京 大鑑閣 1120, 10 p. 1月「デヴィッド・ヒュームの奢侈論と其功利主義的倫理」（雑録）「シウリー公の尚農的政策」『三田学会雑誌』14（1） 「人生の幸福と財産権」『改造』2（1） 2月（雑録）「[四十エキュの人]」（新刊紹介）「生田長江全訳カール・マルクス著 資本論（第一分冊）」『三田学会雑誌』14（2） 「利子徴収の是認」『雄弁』11（2） 3月「デヴィッド・ヒュームの貨幣論」『三田学会雑誌』14（3） 4月「トマツソ・カムパネルラの『日の都]」同14（4） 「資本なき生産の世界」『解放』2（4） 5月「利子学説史上のマッシー及びヒューム」（新刊紹介）「堀江博士著 経済組織改造論」同14（5） 「無勞の民なく無用の地なき国土」『太陽』26（5） 6月（雑録）「アンドリュー・ヤラントンの経済論」『三田学会雑誌』14（6） 「人生の幸福と財産権」『解放』2（6） 7月「デヴィッド・ヒュームの『貿易平衡]論（一）」（雑録）「西紀三十三年の経済恐慌」『三田学会雑誌』14（7） 「経済恐慌と反自由主義の経済学説」『雄弁』11（7） 8月「デヴィッド・ヒュームの『貿易平衡]論（二）」（新刊紹介）「野村兼太郎著 経済的文化と哲学」『三田学会雑誌』14（8） 9月「デヴィッド・ヒュームの『貿易平衡]論（三、完）」（新刊紹介）「坂口昂博士著 概観世界史潮」同14（9） 12月「アリストテレーズの奴隷制度論」同14（12） 「経済思想史上により観たる財産制度」〈慶應義塾出版局『慶應義塾大学社会問題講演』東京 国文堂書店 所収）</p>

	年 譜	著 述 目 録
<p>一九二一（大正一〇）年・37歳</p>	<p>日本女子大学校に出講（1951年頃まで）。 講義「経済原論」（経） 「経済学史」（経） 「研究会」（経） 7月、学位規定なる。 原敬暗殺。 ワシントン海軍軍縮会議。</p>	<p>【私有財産制度論の変遷】東京 下出書店 2,4,160 p. (新生会叢書 第3編) 1月「アリストテレーズの貨殖論」（雑録）「生存権と自殺権」【三田学会雑誌】15（1） 2月（雑録）「希臘領域内に於ける金銀の増加」（新刊紹介）「福田博士著 現代の商業及商人」「福田博士著 暗雲録」同15（2） 「希臘思想家の富に関する観念」【国民経済雑誌】30（2） 「協同的社会と婦人の解放」【解放】3（2） 3月「希臘に於ける貨幣及び利子学説」【三田学会雑誌】15（3） 4月「プラトーンの国家観と之れに対するアリストテレーズの批評（一）」（新刊紹介）「堀江博士著増補改版労働問題の現在及び将来」「荒川憲訳 社会主義審判」同15（4） 5月「プラトーンの国家観と之れに対するアリストテレーズの批評（二）」同15（5） 「所有権と公正の価格」【大観】4（5） 「最大多数者の最大幸福と労働全収権」【太陽】27（5） 6月「プラトーンの国家観と之れに対するアリストテレーズの批評（三、完）」【三田学会雑誌】15（6） 7月「基督教会と徴利問題（一）」同15（7） 「自然法と社会制度」【解放】3（7） 8月「基督教会と徴利問題（二）」【三田学会雑誌】15（8） 9月「基督教会と徴利問題（三）」同15（9） 「地上に建設せらる可き神の国」【中央公論】36（10） 10月「基督教会と徴利問題（四）」【三田学会雑誌】15（10） 11月「基督教会と徴利問題（五）」同15（11） 12月「基督教会と徴利問題（六、完）」同15（12）</p>
<p>一九二二（大正一一）年・38歳</p>	<p>講義「経済原論」（経） 「経済学史」（経、政） 「研究会」（経） 1月、【三田学会雑誌】は経済学部のみ機関誌となる。 4月、専門学校令による専門部創設。 6月、鎌田栄吉文相就任のため塾長辞任。 12月、福沢一郎社頭が塾長を兼任。価値論をめぐり小泉一山川・河上・榎田論争。 全国水平社、日本農民組合、日本共産党など結成。</p>	<p>1月「聖トーマスの奴隷論」【三田学会雑誌】16（1） 「アダム・スミスの出づるまで」【思想】（4） 2月（雑録）「アダム・スミスの生涯（一）」【三田学会雑誌】16（2） 「徴利貸借学説史観」【表現】2（2） 3月（雑録）「アダム・スミスの生涯（二）」【三田学会雑誌】16（3） 「アダム・スミスと仏国学者」【改造】4（3） 4月（雑録）「アダム・スミスの生涯（三）」（新刊紹介）「田中萃一郎抄訳『民主主義批判』」【三田学会雑誌】16（4） 「聖トーマスの私有権論（其一）」【国民経済雑誌】32（4） 「徒弟条例とアダム・スミス」【太陽】28（1） 「社会批評家と社会改革家との対話（桂冠詩人サウデイの前に姿を現せる「ユートピア」の著者トーマス・モアの亡霊）」【大観】5（4） 5月「『道徳的情操論』と『国富論』（上）」（新刊紹介）「小林行昌著 内外商業政策上巻」【三田学会雑誌】16（5） 「聖トーマスの私有権論（其二）」【国民経済雑誌】32（5） 「富の科学」【解放】4（5） 6月「『道徳的情操論』と『国富論』（下）」【三田学会雑誌】16（6）</p>

	年 譜	著 述 目 録
一九二二(大正一一)年		<p>7月「サー・井リアム・テムブルの経済論(上)」同16(7)</p> <p>8月「(新刊紹介)「福田徳三著 社会運動と労銀制度」同16(7)</p> <p>「社会的理想と其の実現」(慶應義塾編「慶應義塾大学経済思潮講習会」東京 岩波書店 所収)</p> <p>9月「サー・キリアム・テムブルの経済論(下)」『三田学会雑誌』16(9)</p> <p>10月「チャールズ・ダヴェナントの経済策」同16(10)</p> <p>12月(雑録)「一千六百二十八年附東印度会社の請願書」同16(12)</p> <p>「フェルチナンド・ラッサルの国家社会主義」『改造』4(12)</p>
一九二三(大正一二)年・39歳	<p>6月3日、アダム・スミス生誕200年記念講演会が東大で行われ、重商主義とスミスについて講演、ついで6月5日塾で行われスミスの生涯について講演。</p> <p>9月、關東大震災にて横浜の家が焼け蔵書を失う。</p> <p>東京女子大学に出演(1943年まで)。</p> <p>講義「経済原論」(経)</p> <p>「経済学史」(経)</p> <p>「研究会」(経)</p> <p>「経済思想史」(経、政)</p> <p>10月、福沢先生伝記編集所開設。</p> <p>11月、林毅陸塾長に就任。</p> <p>ドイツで大インフレ、ヒットラーの運動起こる。</p>	<p>『協同主義への道』東京 下出書店 12,405 p.</p> <p>1月「旧約全書に現れる社会思想(上)」『三田学会雑誌』17(1)</p> <p>「無統治と絶対の富」『三田文学』14(1)</p> <p>「希臘及び羅馬に於ける価値学説」『解放』5(1)</p> <p>2月「旧約全書に現れたる社会思想(下)」『三田学会雑誌』17(2)</p> <p>3月「エッセネ教団の共産主義」同17(3)</p> <p>4月(新刊紹介)「谷口彌五郎著『アダム・スミスの経済思想』」同17(4)</p> <p>5月「原始基督教と社会問題(上)」同17(5)</p> <p>「モーセよりキリストへ」『改造』5(5)</p> <p>「抽象経済学」『解放』5(5)</p> <p>6月「原始基督教と社会問題(下)」『三田学会雑誌』17(6)</p> <p>7月「マーカンチリズムとアダム・スミス」同17(7)</p> <p>「アダム・スミスの生涯」『社会政策時報』(35)</p> <p>8月「原始基督教の社会思想」『三田学会雑誌』17(8)</p> <p>「基督教と経済学」『解放』5(9)</p> <p>9月「羅馬に於ける社会闘争と社会思想(一)」『三田学会雑誌』17(9)</p> <p>10月「羅馬に於ける社会闘争と社会思想(二)」同17(10)</p>
一九二四(大正一三)年・40歳	<p>講義「経済原論」(経)</p> <p>「経済学史」(経)</p> <p>「研究会」(経)</p> <p>「経済思想史」(経、政)</p> <p>「経済学説研究(英)」(経)</p>	<p>『経済原論 序編』東京 時事新報社出版部 2,749 p. (慶應義塾大学教授講師執筆経済学講義)</p> <p>1月「オーゾルグの土地所有論(上)」『国民経済雑誌』36(1)</p> <p>(新刊紹介)「アダム・スミス原著竹内謙二訳全訳『富国論』第三巻」『三田学会雑誌』18(1)</p> <p>「歴史派経済学と社会政策」『社会政策時報』(40)</p> <p>2月「グラッカス兄弟(上)(統「羅馬の社会闘争及び社会思想」)」『三田学会雑誌』18(2)</p> <p>「オーゾルグの土地所有論(下)」『国民経済雑誌』36(2)</p> <p>3月「グラッカス兄弟(中)(統「羅馬の社会闘争及び社会思想」)」『三田学会雑誌』同18(3)</p> <p>4月「グラッカス兄弟(下)(統「羅馬の社会闘争及び社会思想」)」同18(4)</p> <p>5月「革命期の羅馬に於ける社会闘争(上)(統「羅馬の社会闘争及び社会思想」)」(新刊紹介)「Frank Frost Abbott. Roman Politics.」同18(5)</p> <p>「現実世界と神の国」『社会政策時報』(44)</p> <p>「社会主義と無政府主義」『我観』(7)</p>

年	譜	著 述 目 録
		<p>6月「革命期の羅馬に於ける社会闘争(下)(続『羅馬の社会闘争及び社会思想』)」「三田学会雑誌」18(6)</p> <p>7月「革命期の羅馬に於ける社会闘争統編(一)」同18(7)</p> <p>8月「革命期の羅馬に於ける社会闘争統編(二)」(雑録)「ヒーシオドスの『エルガ』」同18(8)</p> <p>9月「革命期の羅馬に於ける社会闘争統編(三,完)」同18(9)</p> <p>「加特力教経済学」「改造」6(9)</p> <p>10月「加特力教経済学の衰滅」「社会政策時報」(49)</p>
<p>一九二五(大正一四)年・41歳</p>	<p>講義「経済原論」(経) 「経済学史」(経) 「研究会」(経) 「経済思想史」(経,政) 「経済学説研究(英)」(経)</p> <p>4月,専門部を高等部と改称。 7月,軍事教練開始。 普通選挙法と治安維持法公布。 陸軍現役将校学校配属令公布。</p>	<p>「経済原論 第一編」東京 時事新報社出版部 1, 631 p.</p> <p>2月「古典的価値学説と効用概念」「三田学会雑誌」19(2)</p> <p>「正価論と労働価値説」「社会政策時報」(53)</p> <p>3月「『ユートピア』島より『新アトランチス』島への移動」「三田学会雑誌」19(3)</p> <p>5月「人口学説史上に於けるグローント及びベチイ」同19(5)</p> <p>「人口増加と社会進歩(人口学説史小観)」「社会政策時報」(56)</p> <p>6月「古典派経済学の復興」(慶應義塾編『現代思潮講演集』東京 岩波書店 所収)</p> <p>7月「英国に於けるマーカンチリズムの隆興及び衰滅」「社会科学」(改造社)(2)</p> <p>「貿易の平衡と人口」「中央銀行会通信録」(268)</p> <p>8月「英国に於けるマーカンチリズムの隆興及び衰滅」「社会科学」(3)</p> <p>「歴史家の経済学の領域侵入」「史学」4(3)</p> <p>(新刊紹介)「ジェームス・ボナー博士の『マルサスと其の事業』増訂版」「三田学会雑誌」19(8)</p> <p>「産業革命以来の人口に関する研究(一)」「中央銀行会通信録」(269)</p> <p>9月「古羅馬社会闘争史上に於けるキクロ」(新刊紹介)「坂西由蔵教授著『経済生活の歴史的考察』」竹内謙二氏訳『国富論』増訂版」「三田学会雑誌」19(9)</p> <p>「産業革命以来の人口に関する研究(二)」「中央銀行会通信録」(270)</p> <p>10月「羅馬共和政治の滅亡(「古羅馬に於ける社会闘争」統論)」「三田学会雑誌」19(10)</p> <p>「資本主義発生行程に於ける農民一揆」「社会政策時報」(61)</p> <p>11月「邦訳『国富論』題言」「三田学会雑誌」19(11)</p> <p>12月「『国富論』以後」同19(12)</p>
<p>一九二六(大正一五)年</p>	<p>講義「経済原論」(経) 「経済学史」(経,政) 「研究会」(経) 「経済思想史」(経) 「経済学説研究(英)」(経)</p> <p>4月,気賀勘重,経済学部長に就任。 9月,時事新報社編『福沢全集』全10巻完結。 『国富論』気賀訳刊。 岡田文相,学生の社会科学研禁禁止通達。</p>	<p>1月「ジュリウス及びアウグストゥス,ケーザル」「三田学会雑誌」20(1)</p> <p>4月「経済学の倫理性—経済学発達史の一考察—」「社会政策時報」(67)</p> <p>「経済学説の社会闘争的背景」「中央公論」41(4)</p> <p>5月「古代希臘上期の詩歌中に現れたる社会状態」「三田学会雑誌」20(5)</p> <p>「封建制度の崩潰,中央集権的国家出現の時代に於ける貨幣学説——特にニコラウス・オレズミウスの貨幣改悪論に就て——」「社会科学」2(5)</p> <p>6月「津田誠一氏逝く」「三田学会雑誌」20(6)</p>

	年 譜	著 述 目 録
一九二六 (大正一五)年		<p>8月「経済総論」〈『社会政策大系』第一巻 東京 大東出版社 所収〉</p> <p>9月「波斯戦役以後の雅典に於ける社会思想」『三田学会雑誌』20(9)</p> <p>10月「雅典国の収入」同20(10)</p> <p>「世界的神政国家の滅亡」『中央論』41(10)</p> <p>11月「富神開眼と懶惰奢侈よりの解放(古希臘経済思想研究の一節)」『三田学会雑誌』20(11)</p> <p>「英文学史と英経済学史」『三田文学』復活1(11)</p>
一九二七 (昭和二年)年	<p>翌年にかけてアリストテレスの経済思想をめぐり福田徳三と論争。</p> <p>1月 父次太郎死去。</p> <p>講義「経済原論」(経)</p> <p>「経済学史」(経, 政)</p> <p>「研究会」(経)</p> <p>「経済思想史」(経)</p> <p>「経済学説研究(英)」(経)</p> <p>12月, 堀江婦一死去。</p> <p>金融恐慌。</p> <p>労農・講座派分裂。</p>	<p>2月「希臘小市邦滅亡期の財富観」『社会科学研究』1(1)</p> <p>4月「学説と個人的事情」『経済往来』2(4)</p> <p>5月「古代希臘の奴隷学説」『社会科学研究』1(2)</p> <p>10月「アリストテレス経済学」同1(3)</p> <p>「ジョン・スチュアート・ミルと社会主義」『財政経済時報』14(10)</p>
一九二八 (昭和三年)年・44歳	<p>講義「経済原論」(経)</p> <p>「経済学史」(経, 政)</p> <p>「研究会」(経)</p> <p>「経済思想史」(経)</p> <p>「経済学説研究(英)」(経)</p> <p>日本の大陸侵略積極化。内務省に特高警察新設。</p>	<p>『近世経済学説史』上巻 東京 政治教育協会 4, 274 p. (政治ライブラリー 8)</p> <p>1月「アリストテレス経済学の疑点 福田徳三博士の「アリストテレスの『流通の正義』=マルクスの其解釈に関する疑」中に現れたる拙稿「アリストテレス経済学」の批評に就いて」堀江婦一教授近く『三田学会雑誌』22(1)</p> <p>「経済倫理学」『三田評論』(365)</p> <p>「希臘経済思想の後世経済理論に対する影響」『思想』(75)</p> <p>3月「アリストテレスの『流通の正義』—マルクスの其解釈に関する疑」(其三)中に於ける福田博士の拙稿に対する批難に就いて『三田学会雑誌』22(3)</p> <p>5月「アリストテレスの『交換の正義』に就て 福田徳三博士最近の労作を讀みて」『経済往来』3(5)</p> <p>7月「古代希臘人の貨幣思想に就きて」『三田学会雑誌』22(7)</p> <p>「経済界の黎明を古代哲学に求むるの説に就て」『文芸春秋』6(7)</p> <p>8月「基督教経済思想」〈『岩波講座 世界思潮』第六巻 東京 岩波書店 所収〉</p> <p>11月「ホメーロスとヘシオドス」『社会科学』4(4)</p>
一九二九 (昭和四年)年・45歳	<p>10月 改造社『経済学全集』の月報に「古版経済書漫談」を連載し始める。31年4月まで。</p> <p>秋, 渋谷に家を建てる。</p> <p>講義「経済原論」(経)</p> <p>「経済学史」(経, 政)</p> <p>「研究会」(経)</p> <p>「経済思想史」(経)</p> <p>「経済学説研究(英)」(経)</p> <p>4月, 経済学部を甲乙に分けて初めて単位制採用。</p> <p>文部省に社会教育局および学生部設置。</p>	<p>『経済学史』東京 日本評論社 15, 464 p. (現代経済学全集 第7巻)</p> <p>『経済学前史』東京 改造社 745 p. (経済学全集 第23巻)</p> <p>『シニオア経済学』Nassau William Senior 著 高橋誠一郎, 浜田恒一共訳 東京 岩波書店 15, 105, 484, 13 p. (経済学古典叢書)</p> <p>1月「政治算術と経済学」『三田学会雑誌』23(1)</p> <p>「町人経済学と正貨流出問題」『社会政策時報』(100)</p> <p>3月「所謂『古代の社会主義』」『経済往来』4(3)</p> <p>6月「資本主義経済学出現の理由」『国本』9(6)</p> <p>9月「ウィリアム・スタンリー・ジェヴォンズの書翰に現</p>

	年 譜	著 述 目 録
	世界大恐慌始まる。	れたる其の『経済学理論』『三田学会雑誌』23(9) 11月「アダム・スミスの放心癖」『社会政策学院同窓会会報』
一九三〇 (昭和五)年・46歳	講義「経済原論」(経) 「経済学史」(経) 「研究会」(経) 「経済思想史」(法) 「英国経済学説研究」(経) 「経済原論特殊問題」(経) 2月, 日吉キャンパス用地購入。 4月, 三辺金蔵, 経済学部長に就任。 福田徳三死去。 社会経済史学会創設。 浜口首相狙撃事件。	1月「初期経済学説中に於ける『生存費労銀説』の潜在」 『三田学会雑誌』24(1) 2月「アダム・スミスの『富国論』初版」『改造社経済学全集月報』(16) 5月「マーカンチリズムの重金思想に就いて」『三田学会雑誌』24(5) 「マルサスの『人口論』」『改造社経済学全集月報』(19) 8月「ユートピア管見(W. E. Campbell著 More's Utopia & his Social Teaching, 1930を讀みて)」『三田学会雑誌』24(8) 12月「マルサスとリカードの価値論争文献」『改造社経済学全集月報』(26)
一九三二 (昭和六)年	講義「経済原論」(経) 「経済学史」(経) 「研究会」(経) 「経済思想史」(法) 「英国経済学説研究」(経) 「経済原論特殊問題」(経) 滿洲事変起こる。 小作争議激化。	1月「近世初期の失業対策と就業権論」『三田学会雑誌』25(1) 5月「ジョン・ベラーズ研究」同25(5) 11月「マーカンチリズム時代の人口学説」同25(11)
一九三三 (昭和七)年・48歳	講義「経済原論」(経) 「経済学史」(経) 「研究会」(経) 「経済思想史」(法) 「英国経済学説研究」(経) 「経済学前史」(経) 「経済原論特殊問題」(経) 「経済学」(法) 4月, 経済学部に助教授をおく。 5月, 塾創立75年祝典。 上海事変。 坂田山心中。 5・15事件。	『重商主義経済学説研究』東京 改造社 12, 1070, 12 p. 1月「マーカンチリズム時代の主権及び財産理論」『三田学会雑誌』26(1) 「賃銀学説史上の生存費説、賃銀基金説及び収益説」『社会経済史学』1(4) 4月「福沢先生の晩年と慶應義塾」『三田評論』(416) 8月「経済思想史上の文献に就て」同(420) 10月「賃銀学説史上の収益説」『卷末に記す』『三田学会雑誌』26(10)(慶應義塾創立75年記念論文集)
一九三三 (昭和八)年・49歳	12月, 図書館監督(館長)に就任(1944年12月まで) 講義「経済原論」(経) 「経済学史」(経) 「研究会」(経) 「経済思想史」(政) 「経済学前史」(経) 「経済原論特殊問題」(経) 「経済学」(法) 11月, 小泉信三, 塾長に就任。 国際連盟脱退。 龍川事件。 日本資本主義論争。	『福沢先生伝』東京 改造社 2, 2, 1, 354 p. (偉人伝全集 第9巻) 1月「梅園、万里及び福沢先生の経済論」『三田学会雑誌』27(1) 「晩年の福沢先生」『三田評論』(425) 2月「通貨論を中心として再び福沢先生の経済論を顧る」 『三田学会雑誌』27(2) 9月「ペリクレスの大工事に就きての社会経済史的考察」 同27(9) 10月「ペリクレス時代以後に於ける希臘の社会不安」同 27(10) 12月「反利子思想の対内性」『経済学論集』3(12)

	年 譜	著 述 目 録
<p>一九三四（昭和九）年・50歳</p>	<p>4月、経済学部長に就任（1938年3月まで） 講義「経済原論」（経） 「経済学史」（経） 「研究会」（経） 「経済思想史」（法） 「経済学前史」（経） 「経済原論特殊問題」（経） 「経済学」（法） 2月、鎌田栄吉死去。 9月、日吉に校舎が完成し予科を移す。 文部省に思想局を設置。 日・独・伊で独裁化が進む。 満洲国に帝政。</p>	<p>「アリストテレス」東京三省堂 2, 3, 2, 214 p.（社会科学の建設者 人と学説叢書） 「経済学史」高橋誠一郎、小泉信三、増井幸雄、加田哲二共著 東京 改造社 491 p.（経済学全集 第49巻） 3月「メリイ・アグネス・ハミルトンの『ジョン・スチュアート・ミル』」『三田学会雑誌』28（3） 4月「パスカル著『独逸宗教改革の社会的基礎』」同28（4） 5月「リキニウス法前後一羅馬社会闘争史研究」同28（5） 7月「ヒッグス版カンチロン著『商業一般の本質論』」同28（7） 「福沢先生の貧富論」『三田評論』（443） 8月「ジョージ・アール・ガイガー氏著『ヘンリー・ジョージの哲学』」『三田学会雑誌』28（8） 9月「アリストテレスの生涯と其の政治理論」同28（9） 12月「アレクザンダー・ハミルトンの財政経済論集」同28（12）</p>
<p>一九三五（昭和一〇）年・51歳</p>	<p>3月、『三田学会雑誌』に「古版経済書解題」の連載を始める。 講義「経済原論」（経、文） 「経済学史」（経） 「研究会」（経） 「経済思想史」（法） 「英国経済学説研究」（経） 「経済学前史」（経） 「経済学」（法） 天皇機関説事件。 文部省、各学校に国体明徴の訓令。</p>	<p>1月「トーマス・ロバート・マルサスと彼れの所謂『経済学上の新学派』」『三田学会雑誌』29（1） 「福沢先生の経済思想」〈慶應義塾大学理財学会編『福沢先生誕生百年記念論文集』東京 理財学会 所収） 2月「マルサスと其の論敵」『セルバン』（46） 「エーランドの経済書その他」『書物展望』5（2） 3月「古版経済書解題 サー・トーマス・コールベツパ著一千六百四十一年版『高利排斥論』」『三田学会雑誌』29（3） 4月「古版経済書解題 サー・シオードア・ジャンセン著一千七百十三年版『特に大不列顛及び仏蘭西間の通商に適用せられたる貿易の一般準則』」ワグナー博士編『アダム・スミスよりジョン・デューイに至る社会改革家』同29（4） 5月「リカード直後に於ける其の分配理論に対する英国経済学者の修正意見」同29（5） 6月「古版経済書解題 シモンド・ツ・シスモンディの『経済学新原理』其の他」サルウィン・シャビロ氏著『コンドルセと自由主義の興起』同29（6） 8月「分配論以前」同29（8） 9月「古版経済書解題 ジェームズ・アンダーソンの『国民的勤勉に就いての考察』」同29（9） 10月「古版経済書解題 農業保護問題に関するマルサス及びリカードの諸小冊子」同29（10） 12月「古版経済書解題 ジョン・レーの『経済学の主題に関する一定新原理の叙述』」同29（12）</p>
<p>一九三六年</p>	<p>3月、慶応義塾経済学会設立、会長となる。 講義「経済原論」（経、文） 「経済学史」（経） 「研究会」（経） 「経済思想史」（法） 「英国経済学説研究」（経） 「経済学前史」（経） 「経済学」（法）</p>	<p>「経済原論」高橋誠一郎撰述 東京 慶応義塾出版局 1, 10, 304 p. 1月「国民主義経済学」『三田学会雑誌』30（1） 2月「古版経済書解題 ウィリアム・バスターサン著一千七百〇一年版『商務院設立の提案及び理由』」同30（2） 3月「古版経済書解題 サー・エドワード・ウエスト著一千八百十五年版『土地に対する資本の適用に関する論</p>

	年 譜	著 述 目 録
<p>一九三六(昭和一一)年・53歳</p>	<p>2・26事件。 日独防共協定。</p>	<p>文』同30(3) 4月「地代学説漫筆」『改造』18(4) 5月「経済学者としてのジェームズ・ミル」『三田学会雑誌』30(5) 7月「古版経済書解題 ルイス・ロバーツ著一千六百四十一年版『外国貿易論』同30(7) 8月「古版経済書解題 ジョン・ラムジ・マカラックの一千八百二十四年版『経済学の発生、進歩、特殊目的及び重要性』並びに一千八百二十五年版『経済原論』同30(8) 9月「古版経済書解題 フランシス・ブレース著一千八百二十二年版『人口原理の例證』同30(9) 10月「古版経済書解題 サー・エドワード・ウエスト著一千八百二十六年版『穀物の価格と労働の賃銀』同30(10) 11月「古版経済書解題 一千七百五十年版アンドリュー・フック著『国債論』同30(11) 12月「ジョイス・オー・ハーツラー教授著『古代諸文明の社会思想』同30(12)</p>
<p>一九三七(昭和一二)年・53歳</p>	<p>講義「経済原論」(経、文) 「経済学史」(経) 「研究会」(経) 「経済思想史」(法) 「英国経済学説研究」(経) 「経済学前史」(経) 「経済学」(法) 4月、学部を経済・商業の2学科にわけける。 北里記念医学図書館完成。 日中戦争始まる。日独伊防共協定。 人民戦線事件。</p>	<p>『経済学史』上巻 東京 日本評論社 2, 6, 573 p. (経済学体系 第6巻) 1月「古版経済書解題 一千六百七十四年版リチャード・ヘインズ著『防貧論』『三田学会雑誌』31(1) 3月「古版経済書解題 ジョン・クック著一千六百四十八年版『唯一緊要事、一名、貧民の訴訟』同31(3) 「悲惨な最後を遂げた社会思想家の書を前にして」『東京堂月報』24(3) 4月「第十九世紀英国反正統派経済学」『フィリップ・ヘンリー・ウィックスチードの『経済学の常識』『三田学会雑誌』31(4) 「真著者の誤伝せられた重要経済書二、三」『学燈』41(4) 6月「古版経済書解題 ジェューカップ・ブンダーリント著一千七百三十四年版『銀子は何事にも応ずる』『三田学会雑誌』31(6) 7月「トーマス・アイ・クック助教授著『プレートオよりパークに至る政治哲学史』同31(7) 8月「ジョン・スチュアート・ミルの富の定義』同31(8) 9月「古版経済書解題 ヴィルヘルム・フォン・ホルニツク著一千六百八十四年版『唯だ意図すれば、奥太利は万国に優越するを得可きである』『パウリ女史著『ナツソ・シニイオアと古典経済学』同31(9) 10月「古版経済書解題 サー・マシュー・デッカー著一千七百四十四年版『外国貿易衰頹の原因に関する試論』同31(10) 11月「イー・エー・ジェ・ジョンソン博士著『アダム・スミスの諸先蹤。英国経済思想の発達』同31(11) 「為政者と学者」『現代の経済』(『慶應義塾大学講座経済学』附録)(1)</p>
<p>一九三八年</p>	<p>以後毎年内閣の高等試験委員。 講義「経済原論」(経、文) 「経済学史」(経) 「研究会」(経) 「経済思想史」(法)</p>	<p>『経済原論』東京 慶應出版社 204 p. (慶應義塾大学講座 経済学) 『浮世絵二百五十年』東京 中央公論社 12, 35, 254 p. 図版 1月「商品としての浮世絵版画」『三田学会雑誌』32(1)</p>

年 譜	著 述 目 録	著 述 目 録
一九三八（昭和一三）年・54歳	<p>「経済学史特殊講義（英国経済学説研究）」（経） 「経済学」（法） 4月、増井幸雄、経済学部長に就任。 国家総動員法公布。</p>	<p>2月「ジョシッフ・マッシィ編一千五百五十七年より一千七百六十三年に至る商業・通貨及び救済法に関する書篇及び小篇蒐集目録」同32（2） 6月「古版書解題 一千六百八十二年版神学博士ギルバート・バーネット著『英国王座裁判所長サー・マシュー・ヘールの生涯』」同32（6） 7月「古版経済書解題 一千七百五十七年版マラッカイ・ポストルスウエイト著『大不列顛の真体制』」同32（7） 8月「古版経済書解題 一千八百〇八年版シャル・フリーエ著『四運動の理論』其他」「Mervyn Crobaugh, Economics for Everybody from the Pyramids to the Sit-Down Strike, 1937.」同32（8）「著書の幸不幸」『現代の経済』2（8） 10月「古版経済書解題 一千八百二十四年版ウィリアム・タムソン著『人間の幸福に資すること最大なる富の分配の原理に関する研究』其他」「三田学会雑誌」32（10） 11月「古版経済書解題 一千八百三十二年版ヴィルヘルム・フォン・ヘルマン著『国家経済研究』」「マックス・ペーア著『第十三世紀より第十八世紀中葉に至る初期英国経済学』」同32（11） 12月「古版経済書解題 ジョン・グレー著一千八百四十八年版『貨幣の本質及び効用に関する講義』」同32（12）</p>
一九三九（昭和一四）年・55歳	<p>10月 日本評論社の『新経済学全集』に付された『経済往来』に「古版経済学漫筆」を連載。43年12月号まで。 講義「経済原論」（経、文） 「経済学史」（経） 「研究会」（経） 「経済学史特殊講義（経済学前史）」（経） 文部省、大学の軍事教練必修にする旨通達。 第2次世界大戦起る。 物資統制強化。 ノモンハン事件。</p>	<p>【『経済学史』 東京 慶應出版社 340 p.（慶應義塾大学講座 経済学） 【『英吉利経済学』 東京 慶應出版社 39 p.（慶應義塾大学講座 経済学） 【『経済原論』高橋誠一郎選述 東京 慶應出版社 371 p. 1月「一千五百八十一年版ダブルユー・エス・チェントルマン著『種々なる人々の有する目下の不平の簡略なる検討』」『三田学会雑誌』33（1） 3月「第十九世紀前半英国社会主義学説の対抗理論として発達を見たる限界効用学説の先蹤」同33（3） 4月「経済名著解題 ウィリアム・スタンレイ・ジェヴォンズ著『石炭問題』」同33（4） 「経済学の『始祖』」『現代の経済』3（4） 5月「希臘及び羅馬経済学（ギリシャ・ラテン学会発会記念公開講演会講演——昭和十四年四月二十七日、慶應義塾大学教室に於いて）」『三田学会雑誌』33（5） 6月「古版経済書解題 一千七百八十五年版サー・ジョン・シンクレア著『英帝国公収入史』」「東京火災保険株式会社五十年誌」「市村今朝蔵著『再組織された英国の経済』」同33（6） 8月「古版経済書解題 一千六百六十九年版匿名氏著『自国貨物の改良、特に又羊毛の加工に由る英吉利の利益主張』」「白井規矩雅著『日本の金融機関——其の生成と発展』」同33（8） 9月「古版経済書解題 仏蘭西共和国第三年版マリー・ジャン・アントアーン・コンドルセー遺著『人類精神進歩の歴史画下図』」同33（9） 「ポリチカル・イコノミイ」『財政』4（9） 「専門図書館待望」『図書館雑誌』33（9） 10月「効用価値学説史の一節」『三田学会雑誌』33（10） 「古版経済学漫筆（一）「経済学の父」サー・ウィリア</p>

年 譜	著 述 目 録
一九三九(昭和一四)年	<p>ム・ペチィと其の著作」『経済往来』(日本評論社新経済学全集附録)(1)</p> <p>11月「古版経済書解題 一千七百七十六年版エチエンヌ・ボンノー・ツ・コンディヤック著『相互的關係に於いて考察せられたる商業と政治』「一千六百六十九年版『自国貨物の改良,特に又、羊毛の加工に由る英吉利の利益主張』の著者に就いて」『三田学会雑誌』33(11)</p> <p>「古版経済書漫筆(二) ブルジョア経済学の源流ジョン・ロックの『利子及び貨幣論』『経済往来』(2)</p> <p>12月「経済文献解題 一千八百八十三年版フランス・デーヴィ・ロング著『ジョージ氏の「進歩と貧困」及びミル氏の貨銀理論の批判的検討』『三田学会雑誌』33(12)</p> <p>「古版経済書漫筆(三)「自由貿易論者の先蹤」サー・ダッドリー・ノースの『貿易論』『経済往来』(3)</p>
一九四〇(昭和一五)年・56歳	<p>6月17日、塾の大講堂にてアダム・スミス没後150年記念講演会が行われ、スミスと国民主義経済学について論じる。</p> <p>講義「経済原論」(経,文) 「経済学史」(経,政) 「研究会」(経) 「経済学史特殊講義(英国経済学説研究)」(経)</p> <p>国防講座が正科目となる。 大政翼賛会発足。 日独伊三国同盟調印。</p> <p>『改訂 重商主義経済学説研究』東京 改造社 6, 10, 891, 11 p. 『経済思想史隨筆』東京 理想社出版部 7, 396 p.</p> <p>1月「経済名著解題 一千八百八十三年版ヘンリー・シヂウィック著『経済原論』『三田学会雑誌』34(1)</p> <p>「古版経済書漫筆(四)『政治算術家』チャールズ・ダヴェナントの諸書』『経済往来』(4)</p> <p>2月「ダグラス・デーキン著『チュルゴオ及び仏蘭西アンシアン・レジーム』『三田学会雑誌』34(2)</p> <p>「古版経済書漫筆(五) マッソイの『自然利率論』とヒュームの『政治論集』『経済往来』(5)</p> <p>3月「西原雄次郎著『藤山雷太伝』『三田学会雑誌』34(3)</p> <p>「古版経済書漫筆(六) サー・ジェームズ・スチュアートの『経済原理』『経済往来』(6)</p> <p>4月「古版経済書解題 一千七百五十三年版ロバート・ウォレス著『古代及び現代に於ける人類の数に関する論述』『三田学会雑誌』34(4)</p> <p>「古版経済書漫筆(七) カンチロンの『商業一般の本質論』とミラボールの『人間の友』『経済往来』(7)</p> <p>5月「古版経済書漫筆(八) フランソワ・ケネーの『経済表』同(8)</p> <p>6月「アダム・スミスと国民主義経済学(アダム・スミス没後一百五十年記念講演会講演——昭和十五年六月十七日、慶應義塾大学大講堂に於いて——)」『三田学会雑誌』34(6)</p> <p>7月「『劍橋古代史』第十二巻『帝国の危機及び回復』同34(7)</p> <p>「古版経済書漫筆(九) チュルゴオの『富の形成及び分配に関する省察』とネッケルの『穀物法規及び取引に就いて』『経済往来』(9)</p> <p>8月「マックス・ベア著『重農主義研究』『三田学会雑誌』34(8)</p> <p>「古版経済書漫筆(十) アダム・スミスの『道徳情操論』及び『国富論』『経済往来』(10)</p> <p>「正価』『改造』22(14)</p> <p>9月「古版経済書漫筆(十一) メルシエ・ツ・ラ・リヴィエールの『政治社会の自然的本質的秩序』とコンディヤックの『商業と政治』『経済往来』(11)</p> <p>10月「正価思想史概観』『三田学会雑誌』34(10)</p>

	年 譜	著 述 目 録
一九四〇（昭和一五）年		<p>「古代社会の経済倫理」「理想」（113）</p> <p>11月「エドモンド・ホイッテカー著『経済観念史』」 「古版経済書解題 一千六百十五年版ロバート・キール著『トレーズ・インクリース』」【三田学会雑誌】34（11）</p> <p>「古版経済書漫筆（十二） ウィリアム・ゴッドウィンの『政治的正義論』、『研究者』及び『人口論』、『経済往来』（12）</p> <p>12月「王子製紙株式会社編纂『楮及楮紙考』」【三田学会雑誌】34（12）</p> <p>「古版経済書漫筆（十三） マリー・ジャン・アントアン・コンドルセの『人類精神進歩の史的素描』」【経済往来】（13）</p>
一九四一（昭和一六）年・57歳	<p>講義「経済原論」（経、文） 「経済学史」（経、政） 「研究会」（経） 「経済学史特殊講義（英国経済学説研究）」（経）</p> <p>6月、野村兼太郎、経済学会会長に就任。</p> <p>8月、塾報国隊結成。 米英に宣戦布告。</p>	<p>【王城山荘隨筆】東京 三田文学出版部 2,5,332 p.</p> <p>2月「古版経済書解題 一千八百二十六年版ナッソー・ウィリアム・シイニオアの『経済学序講』」【三田学会雑誌】35（2）</p> <p>3月「古版経済書漫筆（十四） トマス・ロバート・マルサスの『人口論』、『経済往来』（14）</p> <p>「イギリス、ブルジュワジョイの倫理思想」〈『岩波講座 倫理学』第六冊 東京 岩波書店 所収〉</p> <p>5月「古版経済書漫筆（十五） 『リカードオ地代説の先駆者』ジェームズ・アンダーソンの諸著』同（15）</p> <p>6月「古版経済書解題 一千七百〇七年版『貿易の繁昌を祈る者』著『貨幣及び為替概論』」【三田学会雑誌】35（6）</p> <p>7月「古版経済書解題 一千八百三十一年版リチャード・ジョーンズ著『富の分配及び課税の諸源泉に関する一論、第一部、地代』」同35（7）</p> <p>8月「古版経済書漫筆（十六） サー・エドワード・ウエストの『土地に対する資本の適用』及び『穀物の価格と労働の賃銀』」【経済往来】（16）</p> <p>9月「経済的自給主義思想史概観」「古版経済書解題 一千八百年版トマス・ロバート・マルサス著『目下の食料高価原因の攻究』」【三田学会雑誌】35（9）</p> <p>「古版経済書漫筆（十七） 穀法及び穀価問題に関するマルサス及びロバート・トレンズの著作」【経済往来】（17）</p> <p>10月「イー・ダブルユー・エッカー教授著『ダブルユー・エス・ジェヴォンズの経済学』」【三田学会雑誌】35（10）</p>
一九四二（昭和一七）年・58歳	<p>講義「経済原論」（経、文） 「経済学史」（経、政） 「研究会」（経） 「経済学史特殊講義（英国経済学説研究）」（経）</p> <p>3月、修業年限短縮。</p> <p>4月、野村兼太郎、経済学部長に就任。</p> <p>10月、塾報国団結成。 本土初空襲。 衣料切符制実施。</p>	<p>1月「利潤思想史概観」【三田学会雑誌】36（1）</p> <p>2月「古版経済書解題 一千七百七十五年版ジャック・ネッケル著『穀物立法及び穀物商業論』」同36（2）。</p> <p>3月「古版経済書解題 チャールズ・ダヴェナント著一千六百九十五年版『職費調達的手段方法に関する一試論』」同36（3）</p> <p>4月「英国経済学の性格と其の海軍力」【財政】7（4）</p> <p>5月「古版経済書解題 一千六百十五年版サー・ダッドレイ・ディグズ著『貿易の擁護』」【三田学会雑誌】36（5）</p> <p>「リスト・ルネッサンス」【改造】24（5）</p> <p>6月「経済学名著解題 一千八百五十三年初版カール・クニース著『歴史的方法の見地よりする経済学』」【三田学会雑誌】36（6）</p>

年	譜	著 述 目 録
一九四二(昭和一七)年		<p>8月「現代経済学理論概況(昭和十七年六月二十五日慶應義塾経済学会講演)」同36(8)</p> <p>9月「古版経済書解題 一千八百十一年版ディ・ボアロー著『経済学学習の手引』」同36(9)</p> <p>10月「久保田明光著『近世経済学の生成過程』」同36(10)</p> <p>11月「古版経済書解題 一千八百三十三年版ジョージ・ポーレット・スクロープ著『経済学の諸原理』」同36(11)</p> <p>12月「時代と価値学説」「財政」7(12)</p>
一九四三(昭和一八)年・59歳	<p>講義「経済原論」(経) 「経済学史」(経) 「研究会」(経) 亜細亜研究所開設(小泉所長)。 11月、三田で塾生出陣壮行会を開く。 徴兵年齢を19歳に引き下げ。</p>	<p>【古版西洋経済書解題】 東京 慶應出版社 8, 5, 715 p.</p> <p>1月「古版経済書解題 一千八百十五年版ロバート・トレンズ大佐著『対外穀物交易論』」「三田学会雑誌」37(1)</p> <p>2月「徳川後期に於ける絵画の商品化と浮世絵師」同37(2)</p> <p>3月「経済学名著解題 一千八百四十八年版プルノー・ヒルデブラント著『現在及び将来の国民経済学』第一巻」同37(3)</p> <p>4月「生産経済思想史概観」同37(4)</p> <p>5月「古版経済書漫筆(十八) デーヴィッド・リカードの諸著」「経済往来」(18)</p> <p>8月「古版経済書解題 一千八百二十三年版トマス・ロバート・マルサス著『価値の尺度』」「三田学会雑誌」37(8)</p> <p>9月「消費経済思想史概観」同37(9)</p> <p>10月「古版経済書解題 一千八百四十年版ウィリアム・アトキンソン著『経済原理』」同37(10)</p> <p>11月「政治経済学, 産業経済学, 商学」「財政」8(11)</p> <p>12月「古版経済書漫筆(十九) 古典的経済学区分法の成立に寄与せる諸著」「経済往来」(19)</p>
一九四四(昭和一九)年	<p>3月、塾を退職, 4月、名誉教授となる。 講義「経済原論」(経) 「経済学史」(経) 「研究会」(経) 増井幸雄, 気賀勘重死去。 名誉教授制をつくる。 工学部増設。 神風特攻隊出撃。 サイパン島の日本軍全滅。 東京空襲。 疎開命令, 学徒勤労令, 女子挺身勤労令。</p>	<p>【福沢諭吉】 東京 実業之日本社 7, 368 p. (日本の経済学者 人と学説)</p> <p>【大磯筋記】 東京 理想社 2, 2, 3, 352 p.</p> <p>2月「経済活動動機思想史概観」『三田学会雑誌』38(2)</p> <p>6月「地代思想史概観」同38(5・6)</p>
一九四五(昭和二〇)年・61歳	<p>2月17日、来襲した米国機の爆音を聞きながら『経済学史略』の序文を書く。印刷所が罹災し出版は延期。 三田に焼夷弾落下。 9月、アメリカ軍、日吉のキャンパス接収。 10月、経済学科・商業学科の区別を廃止。 原爆投下, ソ連参戦。 敗戦。</p>	

	年 譜	著 述 目 録
一九四六 (昭和二一)年	<p>2月, 塾学事顧問に就任(1982年2月まで)</p> <p>4月5日, 塾長代理に就任(1947年1月まで)</p> <p>講義「経済原論」(経) 「一般経済史」(経)</p> <p>2月, 金原賢之助, 経済学部長に就任。</p> <p>4月, 男女共学実施。</p> <p>7月, 『三田学会雑誌』復刊。 女性に参政権。</p>	<p>【浮世絵全盛時代】東京 生活社 31 p. (日本叢書 35)</p> <p>8月「西洋経済古書解題 一千六百四十年版サー・ラッフ・マディソン著『英国の警見展望』」『三田学会雑誌』39(2)</p> <p>12月「西洋経済古書解題 一千八百十六年版ジェーン・マーセット夫人著『経済学に関する会話』」同 39(6)</p>
一九四七 (昭和二二)年・63歳	<p>1月31日, 第1次吉田内閣の文部大臣に就任(5月まで)。在任中に教育基本法, 学校教育法可決制定, 6・3・3制実施。</p> <p>2月, 日本学士院会員となる。</p> <p>3月7日, 文部省は教員組合と団体協約を締結。</p> <p>5月24日, 塾創立90周年記念講演会で福沢の帝室論につき講演。 講義「経済思想史」(経)(6月18日より) 「経済学説史特殊」(経)(9月より)</p> <p>1月, 潮田江次, 塾長に就任。</p> <p>11月, 通信教育部創設。 新憲法施行。 社会党内閣成立。2.1スト。</p>	<p>【福沢論吉】東京 実業之日本社 350 p. (1944年版の新版)</p> <p>【西洋経済古書漫筆】東京 好学社 4, 3, 251 p.</p> <p>1月「重商主義と絶対王制」『三田学会雑誌』40(1)</p> <p>9月「基督教の共産団体」同 40(7・8・9)</p> <p>12月「近世経済学者伝研究の葉」『経済評論』2(12)</p>
一九四八 (昭和二三)年・64歳	<p>8月, 日本芸術院長に就任(1979年6月まで)。</p> <p>講義「経済原論」(経) 「経済学説史」(経) 極東軍事裁判判決。</p>	<p>【経済思想史隨筆】東京 理想社 3, 4, 260 p. (1925年版の改版)</p> <p>【経済学史略】東京 慶應出版社 2, 6, 585 p.</p> <p>【西洋経済学史】東京 国元書房 2, 2, 257 p. (世界経済学講座 第5巻)</p> <p>【浮世絵講話】東京 好学社 12, 176 p. 図版</p> <p>2月「近世経済学者伝研究の葉(其の二)」『経済評論』3(2)</p> <p>「『ユートピア』を書くまでのサー・トマス・モア」『評論』(18)</p> <p>4月「近世経済学者伝研究の葉(其の三)」『経済評論』3(3・4)</p>
一九四九 (昭和二四)年・65歳	<p>2月, 大学通信教育協会会長に就任。</p> <p>10月, 東京国立博物館長に就任(1950年8月まで)。</p> <p>11月, 交詢社理事長に就任(1982年2月まで)。</p> <p>経済学史学会創立のため, 久保田明光早大教授と協議。</p> <p>日本学術会議設立され第1期会員。 講義「経済学史」(経) 「経済原論」(経)</p> <p>4月, 新制大学発足。</p> <p>10月, 日吉のキャンパス返還される。 経済学部を経済科・産業科に2分。 下山事件, 三鷹事件, 松川事件, 平事件。</p>	<p>【続経済思想史隨筆】東京 理想社 268 p.</p> <p>【正統派経済学説研究】高橋誠一郎, 高垣寅次郎, 堀経夫, 久保田明光, 中山伊知郎共著 東京 泉文堂 3, 2, 187 p. (経済理論 第1冊)</p> <p>【労働政策とその背景】高橋誠一郎, 大河内一男共編 東京 日本経済新聞社 220 p.</p> <p>【書齋の内外】東京 要書房 2, 4, 237 p.</p>
	<p>4月21日, 国立博物館長室で久保田明光, 堀経夫, 大河内一男氏と経済学史学会</p>	<p>4月「西欧に於ける絶対王政と制限王政の主張」『濟寧』2(4)</p>

年 譜	著 述 目 録
一九五〇 (昭和二五)年・66歳	<p>則家につき協議。 4月22日、早大にて経済学史学会設立の会員総会が開かれ、座長となる。以後同同学会顧問。 8月、文化財保護委員会委員長に就任(1956年12月まで)。 11月、塾評議員に就任。 講義「経済学史」(経) 「経済原論特殊」(経) 7月、「三田学会雑誌」復刊。 12月、林毅陸死去。 朝鮮戦争。</p>
一九五一 (昭和二六)年・67歳	<p>6月、塾史編纂所顧問。 8月～10月、サン・フランシスコ講和会議に際しデ・ヤング記念博物館で日本古美術展覧会が開かれ、文化財保護委員代表としてその管理のために約50日間サン・フランシスコに滞在。 新制大学院設置され、経済学研究科修士課程の講義も担当し始める。 日本女子大学評議員(1982年まで)。 講義「経済学史」(経) 「経済学前史」(経・修) 2月、藤林敬三、経済学部長に就任。 4月、経済科・産業科の区別を廃止。 4月、図書館学科開設。 6月、塾史編纂所発足。 講和条約、安保条約調印。 マッカーサー解任。 民間放送開始。</p>
一九五二年	<p>講義「経済学史」(経) 「経済学前史」(経・修) 新制大学医学部発足。 メーデー事件。 破防法制立。</p>
一九五三年	<p>講義「イギリス経済思想史」(経) 「経済学前史」(経・修)。 4月、大学院博士課程設置。 10月、奥井復太郎、経済学部長に就任。 内灘など軍事基地反対闘争激化。</p>
一九五四 (昭和二九)年・70歳	<p>4月、経済学研究科博士課程の講義も担当し始める。 講義「経済学史」(経) 「経済学前史」(経・修) 「経済学特殊研究」(経・博) 造船疑獄。 教育2法。 自衛隊発足。 第5福竜丸水爆に被爆。</p>
	<p>5月「経済学と文学」【学窓】3(5) 7月「最晩年の福沢先生」【中央公論】65(7)</p> <p>【経済学原理】第一、二分冊 東京 日本女子大学通信教育部 2冊(計67p.) 【経済学原理 学習指導書】第一、二分冊 東京 日本女子大学通信教育部 2冊(28p., 31p.) 【隨筆うきよ絵】東京 勁草書房 2, 153p. 図版(隨筆選集) 1月「アダム・スミスと社会主義者——東京大学におけるアダム・スミスの会発会式講演速記——」【三田学会雑誌】44(1)</p> <p>【経済学史略】東京 泉文堂 2, 6, 585p. (1948年版の再版, 出版社変更) 5月「男女平等観と婦人劣等観——福沢先生の婦人論に因みて——(講演要旨)」【史学】27(2/3)</p> <p>1月「経済学。わが師、わが友。」【経済評論】3(1) 3月「経済学。わが師、わが友。(二)」同3(3) 4月「経済学。わが師、わが友。(三)」同3(4) 5月「〈わが国経済学の先駆者達1〉福沢諭吉先生の経済論」【書齋の窓】(12) 「利子論議」【実業之日本】57(11) 7月「経済学。わが師、わが友。(四)」【経済評論】3(7) 8月「〈経済学者の話〉アダム・スミス——人とその思想——」【三色旗】(77) 9月「経済学。わが師、わが友。(五)」【経済評論】3(9)</p>

	年 譜	著 述 目 録
一九五五 (昭和三〇)年・71歳	<p>遊部久蔵教授の学位論文審査。 講義「イギリス経済思想史」(経) 「経済学前史」(経・修) 「経済学史特殊研究」(経・博) 11月, 高村象平, 経済学部長に就任。 広島で第1回原水爆禁止大会。 砂川事件。</p>	<p>【安藤広重】高橋誠一郎編・解説 東京 講談社 1冊 (講談社アート・ブックス14) The Evolution of Ukiyoè : the artistic, economic and social significance of Japanese wood-block prints. Translated by Ryozo Matsumoto. Yokohama, H. Yamagata, 1955. 154, 13 p. 【わがこと ひとのこと】東京 慶応通信 8, 305 p. 【結婚指輪】東京 読売新聞社 209 p. (読売新書) 5月「経済学。わが師, わが友。(六)」【経済評論】4 (5) 10月「経済学。わが師, わが友。(七)」【経済評論】4 (10) 12月「古代経済思想」, 「中世経済思想」(中山伊知郎等編。【経済学大辞典】Ⅲ。東京 東洋経済新報社 所収) (同上)</p>
一九五六年	<p>講義「経済学史Ⅰ」(経) 「経済学前史」(経・修) 「経済学史特殊研究」(経・博) 6月, 奥井復太郎, 塾長に就任。 国連加盟。 日ソ国交再開。</p>	<p>【経済学 わが師わが友】東京 日本評論新社 230 p. 2月「福沢先生の政治批判精神」【新政界】2 (2)</p>
一九五七 (昭和三二)年・73歳	<p>1月, 映倫管理委員会委員長に就任(1978年3月まで)。 5月, 第1回ウェーランド講演会で講演。 講義「経済学史Ⅰ」(経) 「経済学前史」(経・修) 「経済学史特殊研究」(経・博) 4月, 商学部設置。 10月, 寺尾琢磨, 経済学部長に就任。 10月, ネール首相来塾。 勤務評定反対運動。 ソ連人工衛星第1号打ち上げ。 日ソ通商条約調印。</p>	
一九五八年	<p>7月1日, 母死去。 講義「経済学史Ⅰ」(経) 「経済学前史」(経・修) 「経済学史特殊研究」(経・博) 11月, 創立100年記念式典挙行。 警職法反対運動。 売春禁止法施行。</p>	
一九五九 (昭和三四)年・75歳	<p>5月, 【エコノミスト】に「経済学と浮世絵」の連載を始め, 61年の101回以降は「エビメーテウス」と改題し同年12月号まで続ける。 講義「経済学前史」(経済学史Ⅰ)(経) 「経済学前史」(経・修) 「経済学史特殊研究」(経・博) 9月, 産業研究所開設。 10月, 小島栄次, 経済学部長に就任。 塾労働組合結成。 安保反対運動。</p>	<p>2月「独立自尊の人間教育——福沢論吉先生の社会経済思想——」【社会教育】14(2) 7月「経済学と浮世絵(十一)」【エコノミスト】37(28) 8月「経済学と浮世絵(十四)」同37(31) 「経済学と浮世絵(十五)」同37(32) 「経済学と浮世絵(十六)」同37(33) 9月「経済学と浮世絵(十九)」同37(36) 「経済学と浮世絵(二十一)」同37(38) 「経済学と浮世絵(二十二)」同37(39) 10月「経済学と浮世絵(二十四)」同37(41) 「経済学と浮世絵(二十五)」同37(42) 11月「経済学と浮世絵(二十九)」同37(46) 「経済学と浮世絵(三十)」同37(47)</p>

年	譜	著 述 目 録
		12月「経済学と浮世絵 (三十一)」同 37 (48) 「経済学と浮世絵 (三十二)」同 37 (49) 「経済学と浮世絵 (三十四)」同 37 (51)
一九六〇 (昭和三五) 年・76歳	5月, 日吉で福沢誕生125年記念講演。 講義「経済学前史」(経) 「経済学前史」(経・修) 「経済学史特殊研究」(経・博) 6月, 野村兼太郎死去。 6月, 高村象平, 塾長に就任。 60年安保。 三井三池スト。	1月「経済学と浮世絵 (三十五)」『エコノミスト』38 (1) 「経済学と浮世絵 (三十六)」同 38 (2) 「経済学と浮世絵 (三十八)」同 38 (4) 2月「経済学と浮世絵 (三十九)」同 38 (5) 「経済学と浮世絵 (四十)」同 38 (6) 「経済学と浮世絵 (四十一)」同 38 (7) 「経済学と浮世絵 (四十二)」同 38 (8) 3月「経済学と浮世絵 (四十三)」同 38 (9) 「経済学と浮世絵 (四十五)」同 38 (11) 「経済学と浮世絵 (四十七)」同 38 (13) 4月「経済学と浮世絵 (四十八)」同 38 (14) 「経済学と浮世絵 (四十九)」同 38 (15) 「経済学と浮世絵 (五十一)」同 38 (17) 5月「経済学と浮世絵 (五十二)」同 38 (18) 「経済学と浮世絵 (五十三)」同 38 (19) 「経済学と浮世絵 (五十六)」同 38 (22) 6月「経済学と浮世絵 (五十七)」同 38 (23) 「経済学と浮世絵 (五十八)」同 38 (24) 「経済学と浮世絵 (五十九)」同 38 (25) 7月「経済学と浮世絵 (六十三)」同 38 (29) 「経済学と浮世絵 (六十四)」同 38 (30) 「経済学と浮世絵 (六十五)」同 38 (31) 8月「経済学と浮世絵 (六十六)」同 38 (32) 「経済学と浮世絵 (六十八)」同 38 (34) 「経済学と浮世絵 (六十九)」同 38 (35) 9月「経済学と浮世絵 (七十一)」同 38 (37) 「経済学と浮世絵 (七十二)」同 38 (38) 10月「経済学と浮世絵 (七十四)」同 38 (40) 「経済学と浮世絵 (七十五)」同 38 (41) 「経済学と浮世絵 (七十六)」同 38 (42) 11月「経済学と浮世絵 (七十九)」同 38 (45) 「経済学と浮世絵 (八十)」同 38 (46) 「経済学と浮世絵 (八十一)」同 38 (47) 「経済学と浮世絵 (八十二)」同 38 (48) 12月「経済学と浮世絵 (八十四)」同 38 (50)
一九六一 (昭和三六) 年・77歳	秋, 渡米。 講義「経済学前史」(経) 「経済学前史」(経・修) 「経済学史特殊研究」(経・博) 10月, 小池基之, 経済学部長に就任。 文部省, 学力テスト強行。 松川事件裁判, 全員無罪。	【浮世絵と経済学】東京 毎日新聞社 2, 7, 302 p. 【新修浮世絵二百五十年】東京 中央公論美術出版 22, 382, 23 p. 図版 【わが国土 わが文化財】高橋誠一郎, 浅野長武監修 京都 学芸出版社 745 p. 1月「経済学と浮世絵 (八十七)」『エコノミスト』39 (2) 「経済学と浮世絵 (九十)」同 39 (5) 2月「経済学と浮世絵 (九十一)」同 39 (6) 「経済学と浮世絵 (九十二)」同 39 (7) 「経済学と浮世絵 (九十四)」同 39 (9) 3月「経済学と浮世絵 (九十五)」同 39 (10) 「経済学と浮世絵 (九十六)」同 39 (11) 「経済学と浮世絵 (九十七)」同 39 (12) 「経済学と浮世絵 (九十八)」同 39 (13) 4月「エビメータウス (1)」同 39 (16) 6月「エビメータウス (8)」同 39 (23)

年	譜	著 述 目 録
一九六一 (昭和三六)年		<p>「エビメーテウス(9)」同39(24) 「エビメーテウス(10)」同39(25) 「エビメーテウス(11)」同39(26) 7月「エビメーテウス(14)」同39(29) 「エビメーテウス(15)」同39(30) 8月「エビメーテウス(20)」同39(35) 9月「エビメーテウス(21)」同39(36) 「エビメーテウス(22)」同39(37) 「エビメーテウス(23)」同39(38) 「エビメーテウス(24)」同39(39) 10月「エビメーテウス(25)」同39(40) 「エビメーテウス(26)」同39(41) 「エビメーテウス(27)」同39(42) 「エビメーテウス(28)」同39(43) 「エビメーテウス(29)」同39(44) 11月「エビメーテウス(30)」同39(45) 「エビメーテウス(31)」同39(46) 12月「エビメーテウス(35)」同39(50) 「エビメーテウス(完)」同39(51)</p>
一九六二 (昭和三七)年	<p>1月, 文化教育日米合同会議に参加, 日本側委員代表。 【三田評論】3・4月号より「エビメーテウス」連載し始める。 秋, 文化功勞者に選ばれる。 講義「経済学前史」(経) 「経済学史特殊研究」(経・博) 4月, ビジネス・スクール開設。 大学管理問題。</p>	<p>5月「慶応四年五月十五日——エビメーテウス(二)——」【三田評論】(604) 6月「上野の戦争とウェーランドの経済書——エビメーテウス(三)——」同(605) 7月「米国経済学とウェーランド——エビメーテウス(四)——」同(606)</p>
一九六三年	<p>12月, 膝の骨を痛めて慶応病院に入院。 講義「経済学前史」(経) 「経済学前史」(経・修) 「経済学史特殊研究」(経・博) 10月, 平井新, 経済学部長に就任。 【福沢論吉全集】21巻完成。 原子力潜水艦寄港問題。</p>	<p>【三代言論人集】第2巻 高橋誠一郎, 小野秀雄 共著 東京 時事通信社 291 p. 11月「〈研究余瀟〉聖書, 映画, 舞踊」【経済学史学会年報】(1)</p>
一九六四年	<p>講義「経済学前史」(経) 「経済学前史」(経・修) 「経済学史特殊研究」(経・博) オリンピック東京大会。 新幹線営業開始。</p>	<p>【江戸の浮世絵師】東京 平凡社 166 p. 図版(日本の美術 第22) 【平木コレクション 浮世絵】1~5 高橋誠一郎等編 東京 毎日新聞社(1964-66)5冊</p>
一九六五 (昭和四〇)年・81歳	<p>8月, 慶応病院に入院して白内障の手術を受ける。 講義「経済学前史」(経) 「経済学前史」(経・修) 「経済学史特殊研究」(経・博) 4月, 永沢邦男, 塾長に就任。 慶大学費値上げ反対スト。 伊東岱吉, 経済学部長に就任。 日韓条約調印。</p>	<p>【春信】東京 講談社 143 p. 図版(浮世絵美人画・役者絵 第2) The Japanese Wood-block Prints through Two Hundred and Fifty Years. Translated by Ryozo Matsumoto. Tokyo, Chuo-Koron Bijutsu Shuppan. 161 p. plates. 9月「〈経済学者の話1〉アダム・スミスとその【国富論】(上)」【三色旗】(210) 10月「〈経済学者の話1〉アダム・スミスとその【国富論】(下)」同(211) 12月「労働の尊厳——エビメーテウス(三十四)——」【三田評論】(644)</p>

年	譜	著 述 目 録
一九六六 (昭和四一)年	<p>7月, 国立劇場会長に就任(1977年4月まで)。 講義「経済学前史」(経) 「詩学」(文, 久保田万太郎記念講座で浮世絵をめぐるもの。前期のみ)。 「経済学前史」(経・修) 5月, 小泉信三死去。 9月, サルトル, ボーヴォワール来塾。早大事件。 中国文化大革命。</p>	<p>【浮世絵隨想】東京 中央公論美術出版 267 p. 図版 4月「〈憲政功勞者記念講演〉福沢諭吉を語る」【講演】(尾崎行雄記念財団)(106) 「消費経済学——奥井復太郎追悼講演要旨——」【国民生活研究】5(3) 11月「小泉信三君追想」【三田学会雑誌】59(11) 「故小泉信三会員追悼の辞」【日本学士院紀要】24(3)</p>
一九六七 (昭和四二)年	<p>7月, 左脚に怪我をし慶応病院に入院, 白内障の手術も受ける。 12月17日, 【三田学会雑誌】小泉博士追悼号贈呈式で講演。 12月6日, 気賀, 増井教授23回忌記念講演。 講義「経済学前史」(経) 「経済学前史」(経・修) 併設 「経済学前史」(経・博) 10月, 遊部久蔵, 経済学部長に就任。中東戦争。</p>	<p>4月「福沢先生の政治経済論——第一三二回福沢先生誕生記念会講演——」【三田評論】(659)</p>
一九六八年	<p>5月, 慶応義塾大学各誉博士の称号を受ける。 講義「経済学前史」(経) 「経済学前史」(経・修) 「経済学説特殊研究(経済学前史)」(経・博) 併設 米軍資金導入問題で学生スト, 塾監局占拠。 定年制実施。</p>	<p>2月「気賀勘重, 増井幸雄両博士を偲ぶ——エピメーテウス(五十六)——」【三田評論】(668) 5月「議会政治——エピメーテウス(五十九)——」同(671) 8月「梅園, 万里, 諭吉——エピメーテウス(六十二)——」同(674)</p>
一九六九 (昭和四四)年	<p>講義「経済学前史」(経) 「経済学前史」(経・修) 「経済学説特殊研究(経済学前史)」(経・博) 併設 5月, 佐藤朔, 塾長に就任。 大学紛争激化。日吉でバリケード・スト, 三田で新研究室占拠など。 10月, 島崎隆夫, 経済学部長に就任。 11月, 中鉢正美, 経済学部長に就任。 新研究室完成。</p>	<p>6月「思い出の洋書——エピメーテウス(七十)——」【三田評論】(683)</p>
一九七〇 (昭和四五)年	<p>2月, 丹毒のため慶応病院に入院。 10月~11月, 福沢諭吉の人と思想と題し4回にわたり講演。 講義「経済学前史」(経) 「経済学前史」(経・修) 「経済学説特殊研究(経済学前史)」(経・博) 併設 情報センター発足。 三島由紀夫割腹自殺。 万国博覧会開催。</p>	<p>【隨筆 慶応義塾——エピメーテウス抄——】三田文学ライブラリー編 東京 慶應通信 7, 545 p.</p>
	<p>3月, 福沢終焉之地碑銘を書く。 講義「経済学前史」(経) 「経済学前史」(経・修)</p>	<p>1月「福沢諭吉先生の名著を語る とくに『文明論之概略』について」【望星】2(1) 4月「英国貨幣の思い出——エピメーテウス(八十九)——」【三田評論】(703)</p>

年	譜	著 述 目 録
一九七二年	<p>「経済学説特殊研究(経済 併設学前史)」（経・博） 10月、気賀健三、経済学部長に就任。成田闘争。</p>	<p>7月「経済人、経済的動物、経済的怪物——エピメテウス（九十二）——」同（706）</p>
一九七二（昭和四七）年	<p>4月、私立大学通信教育協会顧問に就任。ピンク映画をめぐる映倫委員長として警視庁と論戦。 講義「経済学前史」（経） 「経済学前史」（経・修） 「経済学説特殊研究(経済 併設学前史)」（経・博） 矢上台に工学部移転。 ニクソン大統領訪中。 沖繩返還。</p>	<p>1月「利息昔語り」『学燈』69（1） 10月「〈私の学校時代〉 福沢諭吉先生との思い出」『文部時報』（1145）</p>
一九七三（昭和四八）年	<p>4月、福沢諭吉協会設立、理事長に就任。 10月25日、塾経済学会主催アダム・スミス生誕250年記念講演会で講演。 講義「経済学前史」（経） 「経済学前史」（経・修） 併 「経済学説特殊研究」（経・博）設 5月、久野洋、塾長に就任。 10月、福岡正夫、経済学部長に就任。石油危機。</p>	<p>『回想九十年』東京 筑摩書房 321 p. 『春日随想』東京 読売新聞社 300 p. 12月「アダム・スミス生誕記念会回想——エピメテウス（一一七）——」『三田評論』（732）</p>
一九七四年	<p>3～4月、気管支肺炎のため慶応病院へ入院。 講義「経済学前史」（経） 「経済学前史」（経・修） 併 「経済学説特殊研究」（経・博）設 田中首相金脈問題。 フォード大統領来日。</p>	<p>2月「物価騰貴——エピメテウス（一一九）——」『三田評論』（734） 10月「人口増加の抑制と奨励——エピメテウス（一二六）——」同（741）</p>
一九七五（昭和五〇）年	<p>中央公論社から「高橋誠一郎コレクション・浮世絵」全7巻の刊行が始まる。 5月 三田演説館開館100年の式典に出席、講演。 講義「経済学前史」（経） 「経済学前史」（経・修） 併 「経済学説特殊研究」（経・博）設 10月、大熊一郎、経済学部長に就任。天皇訪米。</p>	<p>『高橋誠一郎コレクション浮世絵』第1～7巻 東京 中央公論社（1975—77）7冊 『小林清親東京名所図』高橋誠一郎監 東京 学習研究社 200 p. 別冊 48 p. 『近代日本版画大系』1～3 高橋誠一郎監修 加藤順造編 東京 毎日新聞社（1975～76） 2月「マルサス余談——エピメテウス（一三〇）——」『三田評論』（745） 6月「利子思想史の一節」『日本学士院紀要』33（2）</p>
一九七六（昭和五一）年	<p>11月、『国富論』刊行200年記念に「アダム・スミスと慶応義塾」と題し講演。 講義「経済学前史」（経） 「経済学前史」（経・修） 併 「経済学説特殊研究」（経・博）設 ロッキード事件、田中角栄逮捕。</p>	<p>『小林清親名作集 第1～2期』吉田漱監修・編 高橋誠一郎、吉田漱文 京都 アート出版 2冊 『清親』小林清親絵 吉田漱解説 高橋誠一郎文 東京 集英社 144 p.（浮世絵大系12） 『広重踏国名所』高橋誠一郎監 岡長三郎編 東京 学習研究社 36枚 7月「経済学事始——エピメテウス（一四六）——」『三田評論』（761） 8月「経済学の始祖」『三田学会雑誌』69（6）（『国富論』刊行200年記念特集号）</p>
	<p>4月21日、経済学部懇親会に出席してスピーチ。</p>	

年	譜	著述目録
一九七七 (昭和五二)年	5～6月, 気管支肺炎のため慶応病院へ入院。 講義「経済学前史」(経) 「経済学前史」(経・修) 併 「経済学説特殊研究」(経・博)設 5月, 石川忠雄, 塾長に就任。 遊部久蔵死去。 中国, 4人組追放。	
一九七八年	3月末まで経済学部および大学院経済学研究 科講師。 1月28日, 発熱, 咳のため慶応病院へ入院。 中越対立。	【六十余州名所図絵 一立富広重画】高橋誠一郎監 楠 崎宗重他編 東京 毎日新聞社 90 p. 図版 2月「遊部久蔵君逝く——エピメーテウス(一五九)——」 【三田評論】(778)
一九七九年	経済学史研究によって文化勲章を, 病床にて 受章。 10月, 永戸多喜雄, 経済学部長に就 任。 共通1次テスト始まる。	【福次諭吉 人と学説】 東京 長崎出版 8, 10, 337 p. 実業之日本社 1947年版の複製
一九八一年	10月, 大島通義, 経済学部長に就任。	
一九八二年	1月31日, 発熱。 2月9日8時54分, 肺炎のため死去。 10日, ご遺体を乗せた寝台車三田山上 を一巡。 3月1日, 葬儀, 告別式。	
一九八三年		【隨筆 慶応義塾 続——エピメーテウス抄——】三田 文学ライブラリー編 東京 慶応通信 453 p.

(白井厚, 武者小路信和)

〔付記〕 主に社会科学および教育に関する事項と著述について作成し, 芸術その他に関するものは著書および本誌所載のものを除き省略。担当講義については, 慶應義塾におけるもののみを, 大学教務部の調査によって記した。

より総合的な年譜と書誌は, 近くシリーズ「人物書誌大系」(日外アソシエーツ)の1冊として出版される。